

【気象記念講演】

日時：2018年6月23日(土) 10:30 ~ 12:00 (受付開始 10:00)

場所：気象庁講堂

演題：「気象データを用いた新たな分野の事業開拓へ向けて、
気象予報士に求められる能力とは？」

スケジュール：

10:30-10:50 ご講演1：気象庁 気象ビジネス支援企画室長 佐藤 豊 様

10:50-11:10 ご講演2：農研機構 主席研究員 大野 宏之 様

11:10-12:00 パネルディスカッション

(佐藤様、大野様、気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 課長 前田 修平 様、
日本気象予報士会会長 大西 晴夫)

総合司会：日本気象予報士会専務理事 岩田 修

要旨：新たなる気象ビジネス市場の創出を目指した「気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)」が平成29年から開始された。日本気象予報士会も企業・団体会員として活動に参画し、気象分野以外への気象予報士の活躍の場が見いだされようとしている。しかし気象以外の分野において気象データを用いた新ビジネスを構築するためには、従来とは異なる能力を持つ人材が求められる。そこで気象庁からの WXBC の方向性や活動の紹介、および農業分野の専門家や季節予報の専門家の方々による事例紹介をもとに、これからの気象予報士に求められる能力について提言する。

【佐藤 豊 様、気象庁 総務部 情報利用推進課 気象ビジネス支援企画室長】

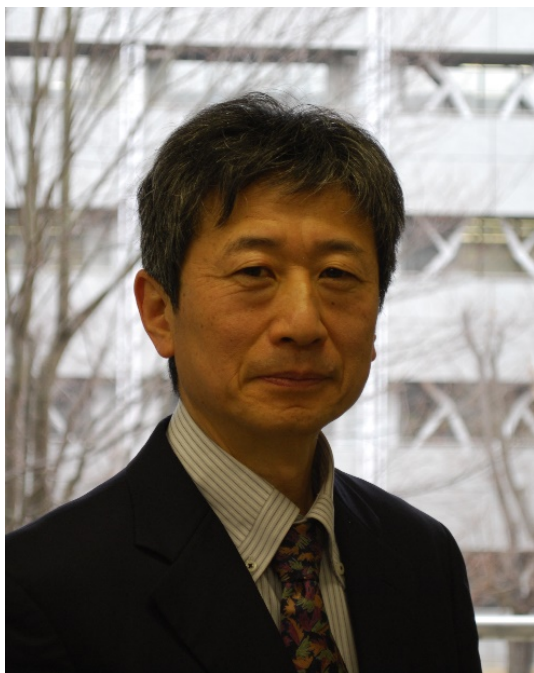


●講演要旨：気象庁は、国土交通省生産性革命プロジェクト「気象ビジネス市場の創出」に取り組んでいます。その一環として、気象データを活用した新たなビジネス(気象ビジネス)の創出に向け、産学官連携組織である「気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)」を平成29年3月に立ち上げました。今回は、その活動内容を紹介するとともに、今後の気象ビジネスにおける気象予報士の活躍への期待等についてお話しします。

●プロフィール：平成元年4月気象庁入庁(気象大学校入校)。仙台管区气象台、気象庁予報部で天気予報業務に携わったのち、気象庁総務部で気象業務全般に係る企画・立案業務に従事。平成29年4月より民間における気象情報の利活用推進に関する業務を担当、気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)事務局も担当している。

(裏面へ続く)

【大野 宏之 様、農研機構農業環境変動研究センター 主席研究員】

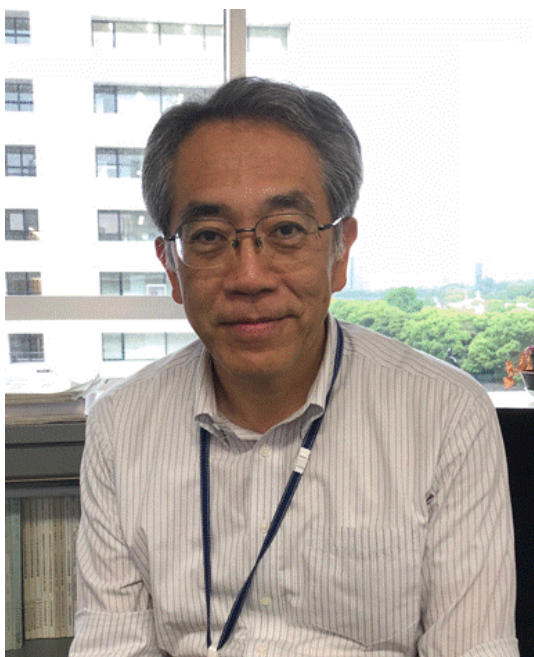


●**講演要旨**：わが国の農業は、温暖化と農家の高齢化という二の課題に直面する。前者に対しては、気温予測に基づき施肥量や収穫時期を調整して品質や収量の低下を抑える技術開発が進められ、後者に対しては、作物の成長を気象情報に基づいて予測して作目や品種が複雑になっても衝突や混乱なく管理が行える技術の開発が進められている。これらは、どちらも農業技術を気象情報によって高度化する取り組みと整理でき、両分野の緊密な協力が今後の日本農業の発展には重要と考えられる。

●**プロフィール**：1960年(昭和35年)東京都出身
1990年(平成2年)名古屋大学大学院理研科博士課程修了(理学博士)
その後、北陸農業既試験場、国際農林水産業研究センターなどを経て現職。

現在の研究テーマは、気象予測情報の作成技術とそれを利用した栽培管理支援手法の開発。日本農業気象学会、日本気象学会、日本雪氷学会などの学会活動を精力的に行うかたわら、気象ビジネス推進コンソーシアム運営委員なども歴任。

【前田 修平 様、気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 課長】



●**講演要旨**：季節予報のうち、主に1か月予報の利活用促進について気象庁が取り組んできた経験を元に、気象の専門家の役割などについてお話しします。

●**プロフィール**：長年、季節予報の研究、開発、発表、解説等の業務に携わってきました。また、農業など季節予報の利用分野の専門家と連携して、予報の利活用促進に関わる研究、調査も実施してきました。

1984年 気象大学校卒 1993年 気象庁予報部長期予報係長

1998年 気象庁気象研究所気候研究部主任研究官

2001年 気象庁気候・海洋気象部気候情報課調査官

2002年 同予報官 2009年 同課長補佐 2010年 同予報官

2012年 同エルニーニョ情報管理官

2015年 気象庁気象研究所気候研究部室長

2017年 気象庁地球環境・海洋部気候情報課長